## 昔のカイロ 温石

が判明しています。 なしており、 査で出土したものです。 恵上人生誕地(歓喜寺地区)の駐車場建設に伴う発掘調 ことがあります。写真左は温石と考えられるもので、 「温石(おんじゃく)」と呼ばれる石の道具が発見される 遺跡の発掘調査をすると、ごくまれに出土品の中から 調査の結果から鎌倉時代のものであること 側面が丁寧に成形された方形を 眀

は、

じて、 あります。 僧が空腹をしのぐために温石を懐に入れていたことが転 下げていたのではないかと考えられています。昔の修行 小さな穴が開いていることが多く、ひもを通して首から た石を布などで包み込み、懐に入れて暖を取るものです。 温石とは現在の携帯カイロにあたるものであり、 懐石料理の「懐石」の語源にもなったという説が 温め

とは、 徴があります。スベスベした手触りがあり、質感はロウ ソクに似ていることから蠟石とも呼ばれています。 かいため加工がしやすく、保温性に優れているという特 写真の温石は、滑石という石が使われています。 硬度1という最も軟質の岩石であり、非常に軟ら 滑石

> 町内でも糸野地区の成道寺周辺にかつて存在したとさ も作られたわけではなく、滑石が採取できる地域に限 られており、 れる湯浅宗光館跡から採集されています(写真右)。 日本を中心とした日本各地の遺跡から発見されてお ることが知られています。そこで作られた石鍋は る石鍋が数多く作られていました。石鍋はどの地域で 鎌倉時代には、 商品として流通していたことが判明しています。 主に長崎県や山口県が当時の生産地であ 滑石の特徴を生かして煮炊きに用

り、

ます。 を変えて再利用されていることが多く確認されてい 温石は、 鎌倉時代における石鍋や温石などの滑石製品 元は石鍋であったものが破損した後に形

院など有力 でしょう。 であった としては から発見 · 関係 一な道 ること たと考 館や寺 る遺 . 具 当 L 910 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1

され

跡

が

多

Ś

えら

れ

者が

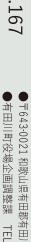
7

い

滑石製の温石(左)と石鍋(右)

広告 町収入の一 -部とするため有料広告を掲載しています。

貴重 時



VEGÉTABLE